

経営比較分析表（令和2年度決算）

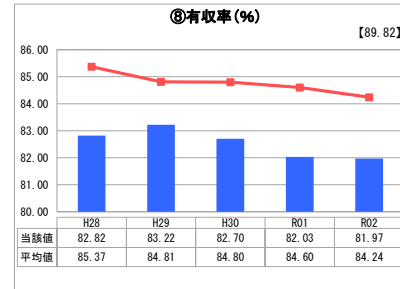
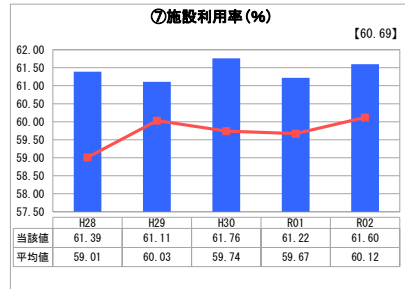
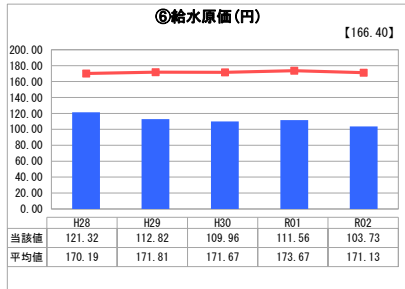
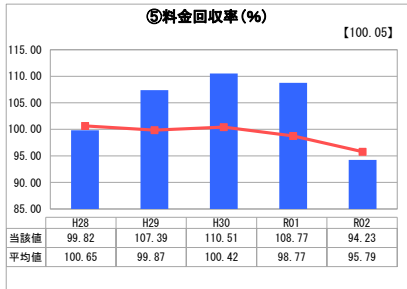
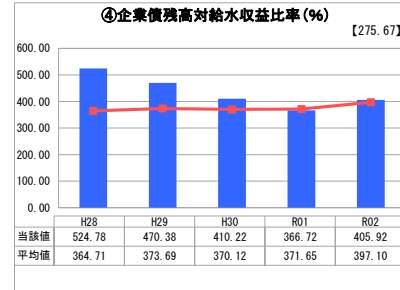
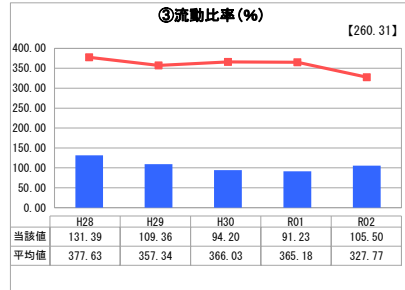
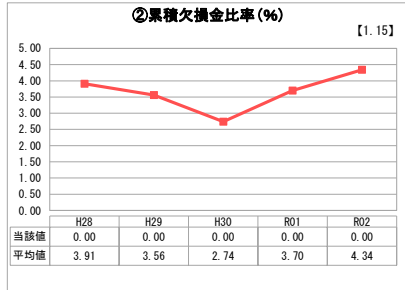
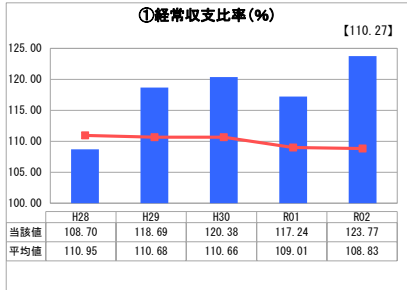
埼玉県 上里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家産料金(円)	
-	63.95	99.81	2,101	

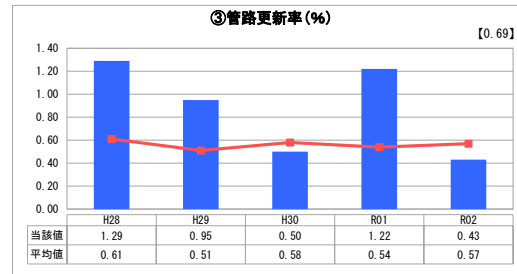
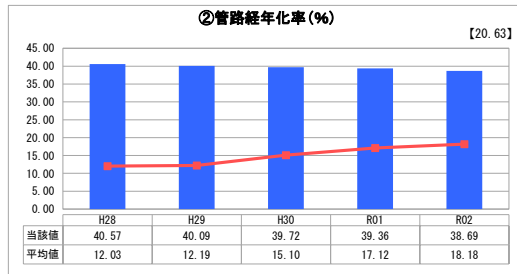
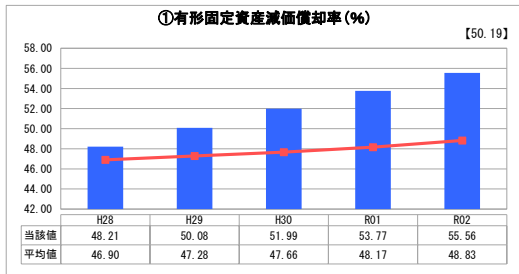
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,848	29.18	1,057.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
30,712	28.91	1,062.33

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%以上に達し、平均値を上回っているため経営は健全であると言えるが、今後の更新投資等の規模等から、経費の効率化などを図っていく必要があると考える。
 ②累積欠損金は発生しておらず、概ね健全と考えられる。
 ③短期的な支払能力を示す値で、平均値を大きく下回っている。前年よりは微増しているのは、企業債の償還金額の減少が主な原因として考えられる。支払い能力を高めるための経営改善を図っていききたいと考える。
 ④企業債残高の規模を表す指標で、おおむね平均値と同程度である。
 ⑤給水にかかる費用が、どの程度給水収益で賄えているかを示す指標であるが、100%以下でさらに平均値をやや下回っているため、健全な経営になるよう経費の効率化を図る必要があると考える。
 ⑥有収率1㎡あたりの費用を表す「給水原価」は平均値よりも低く、上里町の水源の大部分が地下水で、浄水処理費が少なく済むことが要因であるが、今後も維持管理費等の経費の効率化を図っていききたいと考える。
 ⑦一日の配水能力に対する平均配水量の割合である「施設利用率」は、平均値を上回っているが、利用率が多くなるよう経営の努力していききたいと考える。
 ⑧年間の総配水量に対する有収水量の割合である「有収率」は平均値を下回っている。主な理由として経年劣化による漏水が考えられる。漏水対策を行っているが、発見できていないものがあると推測される。今後は改善していくよう管路更新の計画を立てて対応を検討したいと考える。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合いを示している。減価償却の進行により、上昇傾向となり、平均値を上回っている。施設・管路等の更新計画に基づき事業を行っていく必要があると考える。
 ②法定耐用年数を超えた管路の割合を表す指標で、管路の老朽化度合を示している。H26年度に町内の各区域に存在した地元の簡易水道組合が個別に整備実施していた管路が水道事業を引き継いだことなどが法定耐用年数の超過が平均値を上回っている一因と考えられるため、改善していく必要があると考える。
 ③当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、令和2年度も管路の更新は行っているが、平均値を下回っている。管路全体の計画を立て、更新していく必要があると考える。

全体総括

経営については、経常収支比率は平均値を上回る値となっており、概ね健全な状況であると考えられる。しかし、有収率・流動比率は類似団体平均より大幅に低い状態である。有収率に関しては経年劣化が原因の為、漏水の調査・修繕を継続的に実施し効率性を高めて給水を行い、また管路の更新も含め改善したいと考える。また支払能力を高めるためには、健全な財政計画を立て事業運営を行うことが必要であるため、計画に基づく適切な資金収入の確保と、経費の削減等の費用の効率化を一層図っていききたいと考える。
 水道事業に統合される前の、各地域の簡易水道組合の管路の老朽化の問題や、災害時に安定した給水を確保するための管路・施設の維持と耐震化が今後必要となるため、全体の投資計画を含んだ総合的な事業計画を立てて事業の経営をしていく必要がある。